

外来植物ナガエツルノゲイトウ等の防除作業 (胴長着用の水資源機構職員、ドロまみれで奮闘！)

5月24日(土)、薫風香る五月晴れの下、佐倉市臼井田干拓「通称かっぱ公園」(低地排水路)にて、恒例となった水土里ネット印旛沼主催による「外来水草 ナガエツルノゲイトウ及びホテイアオイ」の防除作業が行われました。

防除作業は平成23年から数えて4回目となりますが、今年も地域住民、民間企業・団体及び関係行政機関から約130名の方々が参加しました。毎年防除するナガエツルノゲイトウですが、防除しても再び水面を覆い尽くす状況に参加者一同、その繁殖力の大きさに驚かされていました。

作業は水中からナガエツルノゲイトウを除去する水中班、それを陸に引き上げ仮置き場に集積する陸上班に分かれて協働作業を行いました。水資源機構職員は胴長を履いた出で立ちで全身が泥に塗れることをものともせず水中作業に奮闘しました。水分を十分吸い込んだナガエツルノゲイトウは非常に重く、水中から陸上へ引き上げる人力作業は体力を極度に消耗しますが、今年は例年の作業ボート(2艘)やバックホウ(2機)に加え、一度に大量のナガエツルノゲイトウ群落を参加者が綱引きの如く陸上へ手繰り寄せる優れものも活躍するなど年々その捕り物術も進化しています。除去したナガエツルノゲイトウは外来生物法の防除計画の確認を受けた千葉県印旛土木事務所において処分することになっています。

約3時間あまりの防除作業でしたが、体調不良を起こしたり怪我する人も無く、作業は無事に終了しました。最後に地元の方々から参加者に対して、おこわ飯と取れたてのジャガイモや長ネギなどが振る舞われ一日の労をねぎらっていただきました。



■約130名の参加者の方々



■大量群生するナガエツルノゲイトウを発見



■ナガエツルノゲイトウに乗りながらの作業



■胸まで浸かり、泥まみれの水中作業

※ナガエツルノゲイトウ(特定外来植物)

南アメリカ原産の外来種で、水辺の湿った環境に生える多年草である。在来種の植物を駆逐したり、水面上に繁茂することで水流を停滞させる。また、農業用水のポンプがナガエツルノゲイトウを吸い込むことでスクリーンに目詰まりが生じ、ポンプ運転に支障を来している。